

1. 施工計画(1) 【V施工:過去問20年の類似項目別による出題問題一覧表】

平成11年度 問題1	平成12年度 問題1	平成13年度 問題1	平成13年度 問題25	平成14年度 問題1
施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 工種別施工計画書は、総合施工計画書に基づいて、工種別の施工計画を定めたものであり、施工要領書を含む。	1 ALCパネル工事の工程計画の作成において、下地鋼材の検討は、鉄骨図の監理者による承認の後に開始する。	1 市街地において、地階が深い建築物の場合、工事の安全性、周辺への影響等を考慮して、逆打ち工法を採用した。	1 再生資源の利用の促進に関する法律(リサイクル法)において、再生資源の有効な利用を図る上で特に必要なものとして定められた建設業における指定副産物には、土砂、コンクリートの塊、木材とともに金属くずが該当する。	1 山留め工事において、敷地の高低差が大きく、偏土圧が作用することが予想されたので、地盤アンカー工法を採用する計画とした。
2 総合仮設計画図には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工事用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。	2 鉄骨工事の工程計画において、鉄骨製品を現場に搬入するための事前工程を要する事項には、積算及び見積期間が含まれる。	2 根切り工事により発生する軟弱な粘性土については、場外搬出に当たり、産業廃棄物として処理した。	2 シーリング工事において、目地への充填は、原則として、目地の交差部又はコーナ部から行う。	2 高さ80mの建築物の鉄骨工事の建方を積上げ方式により行うので、建方用機械は、クレーン式大型タワークレーンを使用する計画とした。
3 躯体工事の工期の設定に当たっては、風雨による影響及び労働力の季節変動を見込む。	3 仕上工事は、関連作業が多いので、一般に、作業員を多く投入しても工期短縮はかたりにくい。	3 鉄骨工事の建方において、架構の倒壊防止用ワイヤーロープを建入れ直しに兼用する計画とした。	3 廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、事業者は、産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合には、当該産業廃棄物について発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の行程における処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされている。	3 鉄筋コンクリート造の建築物において、柱型枠にプレキャストコンクリート型枠を使用するので、各階のコンクリートの打込みは、「柱・壁」の垂直部と「はり・床」の水平部とを分割して行う計画とした。
4 揚重運搬機械の選定に当たって、基本的に考慮すべき事項は、建築物の概要(形状、高さ、構造等)、工期、立地条件、揚重資材の種類、経済性等である。	4 施工計画書における基本工程表には、主要な工事項目とともに、監理者に求める検査、承認等の日程も記入し、監理者の承認を受ける。	4 設計図書の特記仕様書と現場説明書との間に相違があったので、現場説明書を優先した。	4 ガラス工事において、外部に面する網入り板ガラスの防錆処理は、ガラスの下辺小口及び縦小口下端から1/4の高さまで行う。	4 コンクリートの打込みをポンプ工法により行うので、コンクリートポンプからの輸送管の圧送負荷を少なくするため、直管に代えてフレキシブルホースを使用する計画とした。
5 ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最大のパスをクリティカルパスといひ、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。	5 工種別施工計画書は、各工種ごとに作成するものであるが、工種によっては省略することもある。	5 山留め工事の切りばりに作用する軸力の計測管理において、盤圧計を切りばりの中央に設置する計画とした。	5 ISO 9001(JIS Q 9001)において、組織は、品質マネジメントシステムを確立し、文書化し、実施し、かつ、維持することとされ、その品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善することとされている。	5 デッキプレートにコンクリートを打ち込んだ屋根スラブにアスファルト防水工事を行う場合、下地を十分に乾燥させた後、当該工事に着手する計画とした。
解答 (正解肢5)	解答 (正解肢1)	解答 (正解肢5)	解答 (正解肢1)	解答 (正解肢4)
1 ○	1 × ALCパネル工事の工程計画の作成において、下地鋼材の検討は、鉄骨に取り付けるため、鉄骨図の検討と同時に進めなければならない。	1 ○	1 × 再生資源の利用の促進に関する法律(リサイクル法)の指定副産物には、土砂、コンクリートの塊、木材が該当するが、金属くずは該当しない。	1 ○
2 ○	2 ○	2 ○	2 ○	2 ○
3 ○	3 ○	3 ○	3 ○	3 ○
4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 × コンクリートポンプからの輸送管の圧送負荷を少なくするためには、フレキシブルホースに代えて直管を使用する。
5 × ネットワークによる工程表において、トータルフロート(余裕時間)が全くないものがクリティカルパスである。	5 ○	5 × 山留め工事の切りばりに作用する軸力の計測管理において、盤圧計は、腹起しに近い位置に設置する。	5 ○	5 ○
平成15年度 問題1	平成15年度 問題25	平成16年度 問題2	平成17年度 問題1	平成18年度 問題1
下に示すネットワーク工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
<p>(注) 又は はダミーを示す。</p> <p>1. この工事全体は、最短20日で終了する。 2. C作業の所要日数が3日減少すると、この工事全体の作業日数は、2日減少する。 3. D作業のフリーフロートは、2日である。 4. I作業の所要日数が2日増加すると、この工事全体の作業日数は、1日増加する。 5. J作業のトータルフロートは、5日である。</p>	<p>1 バリューエンジニアリング(VE)は、一般に、製品やサービスが果たすべき機能や性能を低下させることなく合理化を行い、製品等の機能とコストとの対比により得られる価値を向上させる手法である。</p> <p>2 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」において、建設業を営む者は、建築物等の設計及びこれに用いる建設資材の選択、建設工事の施工方法等を工夫することにより、建設資材廃棄物の発生を抑制するとともに、分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用を低減するよう努めなければならないとされている。</p> <p>3 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の規定に基づき定められた住宅性能表示制度により「室内空気中の化学物質の濃度等」を表示する場合、ホルムアルデヒドについては、必ずその濃度を測定し、表示しなければならない。</p> <p>4 国土交通省における「公共事業支援統合履歴システム(CALS/EC)」は、従来は紙で交換されていた情報を電子化するとともに、ネットワークを活用して各業務部門をまたぐ情報の共有・有効活用を図るための仕組みであり、その実現に向けた取組みとして、電子入札や電子納品が開始されている。</p> <p>5 建築工事におけるデザインレビュー(DR)は、建築物について全体的な実測を行い、実測図に基づいてその空間構成等を分析し、考察する方法である。</p>	<p>1 施工者は、部材、部品等の工場生産に先立ち、工場生産者に、製作図、製作要領書、製品検査要領書、生産工程表、品質管理要領書等の作成を求め、提出させる。</p> <p>2 躯体工事の工期の設定に当たっては、天候による影響、労働力の季節変動、地理的立地条件等を見込んでおく。</p> <p>3 施工者は、工事の着工に先立ち、主要な工事項目とともに、監理者の検査、承認等の日程を記入した基本工程表を作成し、監理者の承認を受ける。</p> <p>4 仮設工事、土工等は、一般に、施工者の施工計画により施工費の差が生じやすい工種である。</p> <p>5 施工者は、監理者による鉄骨の工作図の承認を受けた後、設備工事における梁貫通スリーブの位置及び大きさを検討する。</p>	<p>1 山留め工事において、隣地が住宅で、地下水位が高い軟弱な地盤を深く掘り下げる必要があったので、周辺地盤や構造物に与える影響の少ない場所打ち鉄筋コンクリート中壁を採用した。</p> <p>2 鉄筋コンクリート造の建築物において、柱と柱との内法寸法が6mで開口部がない外壁面にタイル張りを行う場合、その壁に設ける鉛直方向の伸縮調整目地の位置については、壁の中央付近と柱の両側に計画した。</p> <p>3 鉄骨造の高層建築物において、カーテンウォール工事の計画については、鉄骨工事の計画とともに、工事着工後速やかに検討を開始した。</p> <p>4 地下階がある建築物において、ソイルセメント壁による山留め壁については、鉄筋コンクリート造の地下外壁のコンクリートの外型枠としても使用する計画とした。</p> <p>5 地下階がある建築物において、乗入れ構台の高さを周辺地盤より1.5m高く計画したので、施工機械や車両の乗り入れを考慮して、構台面までのスロープの水平距離を6mとした。</p>	<p>1 流動化コンクリートの打込みに当たって、先に打ち込んだコンクリート上面等の傾斜面に沿って、コンクリートを横流しする計画とした。</p> <p>2 既製コンクリート杭のプレボーリング拡大根固め工法において、先端開放杭を用いる計画とした。</p> <p>3 鉄骨の建方に当たって、柱の溶接継手におけるエクシジョンピースに使用する仮ボルトについては、高力ボルトを使用して、全数締め付ける計画とした。</p> <p>4 山留めに用いる地盤アンカー工法において、「引張材とセメントミルク」及び「セメントミルクと地盤」のそれぞれの密着性を高めるために、注入後にもセメントミルクを加圧する計画とした。</p> <p>5 コンクリートポンプ工法において、軽量コンクリートの圧送距離が長い場合、軽量コンクリートの圧送性が普通コンクリートの圧送性よりも劣ることを考慮して、輸送管の呼び寸法を125A以上とする計画とした。</p>
解答 (正解肢2)	解答 (正解肢5)	解答 (正解肢5)	解答 (正解肢5)	解答 (正解肢1)
1 ○	1 ○	1 ○	1 ○	1 × 流動化コンクリートの打込みに当たって、先に打ち込んだコンクリート上面等の傾斜面に沿って、コンクリートを横流ししない(分離が生じやすくなる)。
2 × C作業の所要日数が3日減少しても、別のB-E-G-Kのクリティカルパスが変わらないので、工事全体の作業日数は、20日のままで変わらない。	2 ○	2 ○	2 ○	2 ○
3 ○	3 ○	3 ○	3 ○	3 ○
4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○
5 ○	5 × 建築工事におけるデザインレビュー(DR)は、設計内容について審査して改善などを行うことである。	5 × 施工者は、監理者による鉄骨の工作図の検討と同時に、設備工事における梁貫通スリーブの位置及び大きさを検討する。	5 × 乗入れ構台の高さを周辺地盤より1.5m高く計画したので、構台面までのスロープは、1/10～1/6とすることから、水平距離を9m以上とする。	5 ○

注)類似の選択肢問題は、10色(黄色、緑色、紫色、水色、オレンジ色、薄い黄色、薄い緑色、薄い紫色、薄い水色、薄いオレンジ色)にて分類している。出題問題の図は、手書きとしている。

1. 施工計画(2) 【V施工:過去問20年の類似項目別による出題問題一覧表】

平成19年度 問題2	平成20年度 問題3	平成21年度 問題1	平成22年度 問題1	平成23年度 問題1
施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 コンクリートの乾燥収縮ひび割れの補修は、型枠取外後、仕上材の施工前にできる限り長期間経過した後に行う計画とした。	1 工種別の施工計画書は、一工程の施工の着手前に、総合施工計画書に基づいて定めたものであり、一般に、施工要領書を含む。	1 コンクリートの打込みで設備が隠蔽となる部分の工事の検査を工程の都合により行うことができない場合には、当該工事の監理者の承諾を受け、工事写真等による記録を残して工事を進める計画とした。	1 工種別の施工計画書については、どの工事においても共通的に利用できるように便宜的に作成されたものではなく、対象となる個別の工事について具体的に検討したうえで作成する必要がある。	1 特記は、標準仕様書と異なる事項や標準仕様書に含まれていない事項について、質問回答書、現場説明書、特記仕様書及び図面において指定された事項をいう。
2 掘削する平面形状が単純な矩形で、周辺に特殊な条件がない敷地において、山留め切ばりにかかる軸力を測定する盤圧計については、切ばり各段ごとにX方向、Y方向に各1か所ずつ設置する計画とした	2 鉄骨の工作図については、施工性、構造細部の納まり、設備配管用の梁貫通スリーブ等の検討や調整を行ったうえで、監理者の承認を受ける。	2 軽量コンクリートの打込みをコンクリートポンプにより行うに当たって、高所圧送や長距離圧送の場合には、輸送管内での閉塞等为了避免するため、輸送管の呼び寸法を125Aとする計画とした。	2 請負者は、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、設計図書に指定のない仮設物等も含めて、監理者の承認を受ける必要がある。	2 公共建築工事において、工事に関連して発見された文化財その他の埋蔵物の発見者としての権利は、一般に、発注者と請負者が等しい割合で保有する。
3 建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームによる断熱材現場発泡工法において、吹付けが厚くなりすぎて表面仕上げに支障がある箇所については、カッターナイフ等により表層を除去して所定の厚さを確保する計画とした。	3 ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。	3 ALCパネル工の工程計画の作成において、ALCパネルの受け材の検討については、鉄骨図の監理者による承認の後に行う計画とした。	3 工程表を作成するに当たって、「気候、風土等の影響」、「施工計画書の作成及び承認の時期」、「試験の時期及び期間」、「仮設物の設置期間」等を考慮するとともに、これらの事項に対する余裕も考慮する必要がある。	3 工種別の施工計画書は、一工程の施工の着手前に、総合施工計画書に基づいて、工種別に定めたものであり、一般に、施工要領書を含む。
4 ターンバックル付き筋かいを有する建築物の鉄骨の建方において、建入れ直しに当たっては、その筋かいを用いずに架橋の倒壊防止用ワイヤロープを兼用する計画とした。	4 建築物の解体工事に先立って調査において判明したPCBを含有する変圧器等については、PCBを含有する変圧器等を取り外したうえで、保管事業者である建築物の所有者に引き渡し、当該所有者の責任において処分する。	4 山留め工事において、敷地の高低差が大きく、偏土圧が作用することが予想されたので、地盤アンカー工法を採用する計画とした。	4 建設業法に基づき施工体制台帳を作成した特定建設業者は、建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで、その施工体制台帳を工事現場に備え置く必要がある。	4 工事に使用する材料は設計図書に定める品質及び性能を有する新品とするが、仮設に使用する材料は所要の品質及び性能を有する中古品でもよい。
5 H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みについては、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの両側から同時に打ち込む計画とした。	5 建築物の新築工事において、積載荷重1tの本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、あらかじめエレベーター設置報告書を労働基準監督署長あてに提出することにより、エレベーターの据付工事完成直後から使用することができる。			
解答（正解肢5）	解答（正解肢5）	解答（正解肢3）	解答（正解肢2）	解答（正解肢2）
1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>
2 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	2 × 請負者から提出される総合施工計画書等を受ける監理者は、品質管理は承諾したものとするが、仮設物等のその他の資料は受け取っただけとなる。	2 × 公共建築工事において、工事に関連して発見された文化財その他の埋蔵物の発見者としての権利は、発注者が保有する。
3 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	3 × ALCパネル工の工程計画の作成において、下地鋼材の検討は、鉄骨に取り付けるため、鉄骨図の検討と同時に進めなければならない。	3 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>
4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
5 × H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みは、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの片側から打ち込む計画とする。	5 × 積載荷重1t以上の本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、設置報告書を労働基準監督署長あてに提出して落成検査を受けなければならない。			

平成24年度 問題1	平成25年度 問題1	平成26年度 問題1	平成27年度 問題1	平成28年度 問題1
施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 工期全体にわたる工事の実施について作成された実施工程表(全体工程表)は、施工の順序及び工期全体を監視できるものであり、大きな設計変更等があった場合には、速やかに訂正されなければならない。	1 一工程の施工の着手前に、総合施工計画書に基づいて作成する工種別施工計画書は、各工種ごとに作成するものであるが、工種によっては省略することもある。	1 ネットワーク表示による工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが、工程管理上、重要である。	1 契約書の規定に基づく条件変更等により、実施工程表を変更する必要が生じたので、施工の進捗に支障がないよう、当該変更部分の施工と並行して変更された実施工程表の提出を受け承認した。	1 特記は、標準仕様書と異なる事項や標準仕様書に含まれていない事項について、設計図書のうち、質問回答書、現場説明書、特記仕様書及び図面において指定された事項をいう。
2 標準仕様書は、建築物の質的水準の統一や設計図書作成の合理化を図ることを目的として、工事に使用される材料、工法、試験方法等め標準的な仕様について、あらかじめ作成されたものである。	2 設計図書に選ぶべき専門工事業者の候補が記載されている場合であっても、設計図書に示された工事の内容・品質を達成し得ると考えられるならば、候補者として記載されていない専門工事業者を、工事施工者の責任で選定することができる。	2 総合施工計画書は、工事の着手に先立ち、総合仮設を含めた工事の全般的な進め方や、主要工事の施工方法、品質目標と管理方針、重要管理事項等の大要を定めたものである。	2 部材、部品等の工場生産に先立ち、工場生産者の作成した製作図、製作要領書、品質管理要領書、製品検査要領書等について、工事施工者からの提出を受け承認した。	2 地震の後に、屋外に設置されているクレーンを用いて作業を行うときは、その地震が中震(震度4)の場合であれば、クレーンの各部分の点検を省略することができる。
3 品質管理計画は、工種別施工計画書の一部をなすもので、「品質管理組織」、「管理項目及び管理値」、「品質管理実施方法」、「品質評価方法」及び「管理値を外れた場合の措置」について、設計者が具体的に記載するものである。	3 山留め支保工において、火打材を用いない切ばりに作用する軸力の計測管理に当たっては、盤圧計を腹起しと切ばりの接合部に設置する。	3 建設業法に基づき施工体制台帳を作成した特定建設業者は、建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで、その施工体制台帳を工事現場に備え置く必要がある。	3 プレキャストコンクリート部材の運搬・揚重・保管について、搬入される部材を、直接、運搬車より組立て用クレーンで吊上げて組み立て、悪天候により作業ができない場合には荷降しのみとし、現場内に仮置きするという施工計画書の提出を受けた。	3 クレーン、リフト、エレベーター等から材料の取込みに使用する仮設の荷受け構台は、積載荷重等に対して十分に安全な構造のものとし、材料置場と兼用することができる。
4 コンクリート乾燥収縮ひび割れの補修は、型枠取外後、仕上材の施工前までに行う計画とする。	4 H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みについては、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの片側からコンクリートを流し込み、反対側にコンクリートが上昇するのを確認した後、両側から打ち込むこととする。	4 建築物の新築工事において、積載荷重1tの本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、あらかじめエレベーター設置報告書を労働基準監督署長あてに提出することにより、エレベーターの据付工事完成直後から使用することができる。	4 近隣の安全に対して行う仮設計画に必要な一切の手段については、契約書や設計図書に特別の定めがなかったため、受注者の責任において定めた施工計画書の提出を受けた。	4 品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書については、原則として、当該工事の施工に先立ち作成のうえ、監理者に提出する。
解答（正解肢3）	解答（正解肢2）	解答（正解肢4）	解答（正解肢1）	解答（正解肢2）
1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>	1 <input type="radio"/>	1 × 実施工程表を変更する必要が生じた場合、施工の進捗に支障がないよう、当該変更部分の施工に先立ち、監理者の承諾を受ける。	1 <input type="radio"/>
2 <input type="radio"/>	2 × 設計図書に選ぶべき専門工事業者の候補が記載されている場合は、その中から選定する。	2 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	2 × クレーンは、中震(震度4)の場合、クレーンの各部分の点検をしなければならない。
3 × 品質管理計画は、「品質管理組織」、「管理項目及び管理値」などについて、施工者が具体的に記載するものである。	3 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>
4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	4 × 積載荷重1t以上の本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、設置報告書を労働基準監督署長あてに提出して落成検査を受けなければならない。	4 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>

注)類似の選択肢問題は、10色(黄色、緑色、紫色、水色、オレンジ色、薄い黄色、薄い緑色、薄い紫色、薄い水色、薄いオレンジ色)にて分類している。出題問題の図は、手書きとしている。